



生産農家グループでデパートに出店



自然農法の種子ユーザーレポート⑩

# 私はこんな風に使っています！

このコーナーでは、「自然農法の種子」を活用いただいている方々の栽培や種子に対する思い、使用している自然農法品種についてご紹介します。

自然農法種子ユーザーレポートも今回で10回目を迎えました。これまで積み上げてこられたのも自然農法種子をご活用頂いている皆様のおかげと感謝申し上げます。記念すべき第10回は長野県下高井郡木島平村で自然農法を始めて20年目を迎える堀政則氏をご紹介します。

木島平村は長野県北部に位置し、東は白樺やブナの原生林が広がる上信越国立公園、西は千曲川に隣接し、1級河川馬曲川と樽川により堆積された扇状地帯であり、標高は350mほどでスキー場が多く、積雪期間が110日と雪深いのが特徴です。飯山市、中野市と隣接しています。また、2015年に開業した北陸新幹線の飯山駅からは車で10分程度です。木島平村は村を挙げて「自然劇場きじま平」をキャッチフレーズに「有機の里づくり」を進めています。

## 自然農法での新規就農

堀さんは東京でサラリーマンとして働いていましたが、当時千葉県長生郡にあった

## 堀政則さん



自然農法（無施肥無農薬栽培）の水稲栽培の田植え、除草、収穫体験に参加している内に、自然農法で作ったお米でないと食べられない方や、化学物質過敏症の方がいることを知り、本物の食べものを作らなければいけないと、自然農法を志しました。

就農先を見つけるには大変な苦労があったようです。当時は、減反政策により水稲農家としての新規就農は難しく、さらに自然農法での新規就農となるとひととき難しかったそうです。福島、宮城、栃木、群馬、山梨、神奈川、千葉の農業改良普及センターを訪ねましたが、受け入れてくれるところが多くなかなか見つからず、3年かかってようやく現在の就農地である木島平村にたどり着きました。就農当初は50aの水田と家庭菜園程





第18回 米・食味分析鑑定コンクールの食味値

品種名	整粒値	水分	蛋白	アミロース	脂肪酸	A食味値	B味度値	A+B合計点
はたはったん	86.2	14.7	6.3	17.2	19	87	81.7	168.7
コシヒカリ	83.6	14.6	6.5	17.3	18	86	76.5	162.5
農林48号	76.9	14.1	6.3	17.6	15	93	83.2	176.2

水稲栽培は就農当初から行っていますが、栽培に関しては課題がたくさんあります。雑草問題や苗作りにはもう一工夫が必

### 水稲栽培について

度の畑で自然農法をはじめ、現在は110aの水田と20aの畑で経営しています。自然農法は提唱者（福岡正信や岡田茂吉など）の考え方の違いによりいくつかの流れがあり、岡田茂吉の提唱する自然農法にもいくつかの流れがあります。堀さんの実践する自然農法は、岡田茂吉が提唱している「土を尊び、土を愛し、土を汚さない」という理念に従って、無施肥無農薬で栽培する「TOREK自然農法」です。堀さんに栽培の状況をお伺いしました。



食味が評判のバテシラス

昨年自然農法センター育成の水稲の新品種「はたはったん」の頒布が開始された

### 「はたはったん」の栽培状況

要だと考えています。ただ、品質に関しては、だいぶ目標に近づいてきているのではないかと考えています。2011年、農業改良普及センターの担当者に薦められ、「第14回米・食味分析鑑定コンクール国際大会」に始めてエントリーしました。その結果、最高の金賞を受賞（品種・コシヒカリ）しました。その後、コンクールへの参加を継続し、翌年の第15回特別優秀賞を受賞（品種・コシヒカリ）し、昨年、第18回では特別優秀賞をいただきました（品種・農林48号）。



チャコのお世話をする堀さん





農業体験に来られた消費者の方と

ので、栽培してみました。「コシヒカリ」に比較して、分けつが多く、登熟後半まで粘り強いといった印象でした。今回は初めての栽培なので「コシヒカリ」と同じ方法で行いました。主な耕種概要は、播種量160g/箱、栽植密度40株/坪、播種4/26、田植え6/5、出穂8/20、稲刈り10/13/14でした。今回の栽植密度でも分けつは十分に増えましたが、マニユアルには60〜80株/坪とありましたので、来年は密植栽培もしてみたいと思っています。食味に関しては消費者からの評価は高く、「コシヒカリ」よりもいいという声も聞いています。

### 自然農法の種子

自然農法センターの種子は2004年から使用しています。発芽の揃いが良く、無肥料でもよく育つこと、食味のよいことが気に入っています。当初より様々な品種を栽培してきましたが、現在はキュウリの「バテシラズ」が人気入りです。栽培のしやすさもありですが、消費者からの味の評価が高く、この品種でないと買わないというお客さんもいます。昨年は「バテシラズ3号」を初めて

作りましたが、「バテシラズ」よりも栽培しやすいという感じを受けました。現在使用している圃場は7年前から栽培を開始し、その時から無肥料栽培を継続していますが、ミニトマトの「チャコ」は、それでも樹が大きく育つので、2本仕立てにして、栽培するほど草勢の強い品種です。

堀さんは今後も、消費者の方が元気に暮らせるように、自分の作ったお米や野菜を届け続けたいと願っています。本来あるべき姿の農業を追い求め、人に理想を押しつけることなく淡々と自然農法に取り組み堀さんの姿勢が印象深く感じました。

(育種課 石河 信吾)

## 今号の紹介品種 水稲うるち品種「はたはったん」

当センターの自然農法水田で、自然交雑した自生株の中から穂が大きく草丈の高い系統を無肥料栽培条件で選抜しました。少肥でも収量性が高い偏穂重型品種で、「コシヒカリ」に比べ玄米はやや小粒。近年頻発する高温登熟障害の発生が著しい地域でも「コシヒカリ」に比べ出穂がやや遅いため白未熟粒の発生が抑えられる傾向です。食味値は「コシヒカリ」と同等で、甘味があり粘りが少ないすっきりした味わい。少肥栽培向きの自然農法栽培を究めた方に最適な、玄人好みの品種です。

